

表 5-14 EEM 利用イベントと EEM 未使用イベントの分散分析結果

[As-Type Design]					
== Mean & S.D. (SD=sqrt(Vtotal/N)) ==					
A= EEMの使用による環境配慮項目指数の違い					

A	N		Mean		S.D.

1	11	1.82	0.4519		
2	48	1.7904	0.6478		

== Analysis of Variance ==					
S.V	SS	df	MS	F	

A	0.0078	1	0.0078	0.02 ns	
subj	22.3912	57	0.3928		

Total	22.3990	58	+p<.10 *p<.05 **p<.01		

$F=0.02ns(not\ significant)$ であったため有意性は確認できなかった。

エコイベントマニュアルを利用している方がわずかに環境に配慮したイベントづくりがなされているという結果であったが、有意性がみられるほどの傾向は無かった。

5-4-3-2 EEM 導入都道府県内における EEM 利用未使用の分散分析結果

EEM を導入している都道府県の中で、EEM を利用して開催されたイベントと EEM を利用せずに開催されたイベントの分散分析の結果は以下ようになった (表 5-15)。

表 5-15 EEM 導入都道府県内の EEM 利用イベントと EEM 未使用イベントの分散分析結果

[As-Type Design]					
== Mean & S.D. (SD=sqrt(Vtotal/N)) ==					
A= EEM導入・未導入の違い					

A	N		Mean		S.D.

1	11		1.82	0.4519	
2	10		1.667	0.5972	
3	12		1.7008	0.6679	

== Analysis of Variance ==					
S.V	SS	df	MS	F	

A	0.1390	2	0.0695	0.19 ns	
subj	11.1657	30	0.3722		

Total	11.3047	32	+p<.10 *p<.05 **p<.01		

$F=0.19ns$ であったため有意性は確認できなかった。

エコイベントマニュアルを利用している方がわずかに環境に配慮したイベントづくりがなされているという結果であったが、有意性がみられるほどの傾向は無かった。

5-4-3-3 EEM 未導入都道府県内における EEM 利用未使用の分散分析結果

EEM を導入していない都道府県の中で、EEM を利用して開催されたイベントと EEM を利用せずに開催されたイベントの分散分析の分析結果は以下のようになった (表 5-16)。

表 5-16 EEM 未導入都道府県内の EEM 利用イベントと
EEM 未使用イベントの分散分析結果

[As-Type Design]					
== Mean & S.D. (SD=sqrt(Vtotal/N)) ==					
A= EEM未導入間の違い					

A	N		Mean		S.D.

1	3	1.12	0.4001		
2	2	1.96	0.18		
3	21	1.98	0.6276		

== Analysis of Variance ==					
S.V	SS	df	MS	F	

A	1.9556	2	0.9778	2.55 +	
subj	8.8162	23	0.3833		

Total	10.7718	25	+p<.10 *p<.05 **p<.01		

F=2.55+であったため、サンプル数は少ないが、有意水準 10%で有意差ありという結果であった。分析結果を読み解くと、EEM 未導入の都道府県においては、EEM を利用して開催されたイベントよりも、EEM を利用せずに開催されたイベントの方が、環境配慮行動がなされている傾向にあるといえる。しかし、この分析は、EEM を利用してイベントを開催した件数が 3 件と母数が少ないため、十分な数の集団を分析できなかったためこのような結果になったと考えられる。

5-5 EEM 導入、未導入で分けた大項目の分散分析

5-5-1 目的

EEM を導入した都道府県と EEM を導入していない都道府県のそれぞれで、環境配慮項目リストの大項目に相関関係はあるのか把握すること。

5-5-2 方法

- 方法1 アンケート結果から、「できた：4点、まあまあできた：3点、あまりできなかった：2点、できなかった：1点、評価不可：0点」とし、イベント59件の大項目ごとの点数を出し、平均点を出す
- 方法2 環境配慮項目指数を基に、js-STAR-KISNET を利用して分散分析を行う

5-5-3 結果

5-5-3-1 EEM 導入都道府県の大項目分散分析結果

EEM を導入している都道府県のイベントのなかで、大項目の取り組み易さに相関関係があるのかを以下に示す（表 5-17，図 5-1）。

表 5-17 EEM 導入都道府県内の大項目の分散分析結果

[As-Type Design]				
== Mean & S.D. (SD=sqrt(Vtotal/N)) ==				
EEM導入自治体				
水準	イベント数	平均点	標準偏差	
A1=①自然環境	34	0.9206	0.534	
A2=②ごみ	34	1.7618	0.6839	
A3=③交通	34	1.1412	0.7488	
A4=④省エネルギー・省資	34	1.7794	0.7669	
A5=⑤環境啓発	34	0.6735	0.711	
A6=⑥運営体制	34	1.3353	0.9358	
== Analysis of Variance ==				
S.V	SS	df	MS	F
A	34.0016	5	6.8003	12.06 **
subj	111.6176	198	0.5637	
Total	145.6192	203		+p<10 *p<05 **p<01

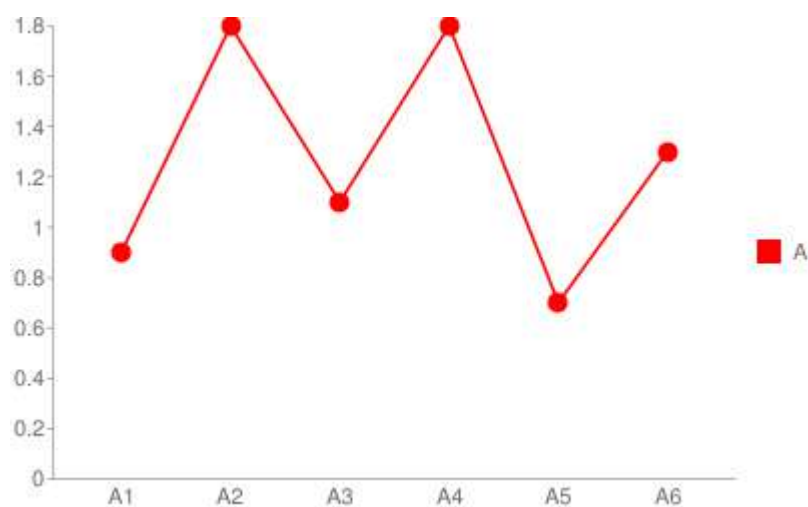


図 5-1 EEM 導入都道府県内の大項目の分散分析結果グラフ

$F=12.06^{**}$ であったため、有意水準 1%で有意差ありという結果であった。

平均点のデータから、EEM を導入している都道府県は、特に「②ごみ」「④省エネルギー・省資源」の取り組みがなされていることがわかる。また、平均点のデータから、「⑤環境啓発」の取り組みはあまりなされていないことがわかる。

「①自然環境」の項目について、平均点が 0.9206 点であるのに対し、標準偏差が 0.534 である。つまり、EEM を導入している都道府県にとって、①の項目は総じて全般的に取り組みにくい項目であることが分かる。

5-5-3-2 EEM 未導入都道府県の大項目分散分析結果

EEM を導入していない都道府県のイベントのなかで、大項目の取り組み易さに相関関係があるのかを以下に示す（表 5-18, 図 5-2）。

表 5-18 EEM 未導入都道府県内の大項目の分散分析結果

[As-Type Design]				
== Mean & S.D. (SD=sqrt(Vtotal/N)) ==				
A= A				

水準	イベント数	平均点	標準偏差	

A1=①自然環境	26	1.1423	0.5898	
A2=②ごみ	26	1.7692	0.7037	
A3=③交通	26	1.2538	0.6829	
A4=④省エネルギー・省資源	26	1.8577	0.7762	
A5=⑤環境啓発	26	0.4308	0.5405	
A6=⑥運営体制	26	1.2192	0.8992	

== Analysis of Variance ==				

S.V	SS	df	MS	F

A	34.2575	5	6.8515	13.12 **
subj	78.3227	150	0.5222	

Total	112.5802	155	+p<10 *p<05 **p<01	

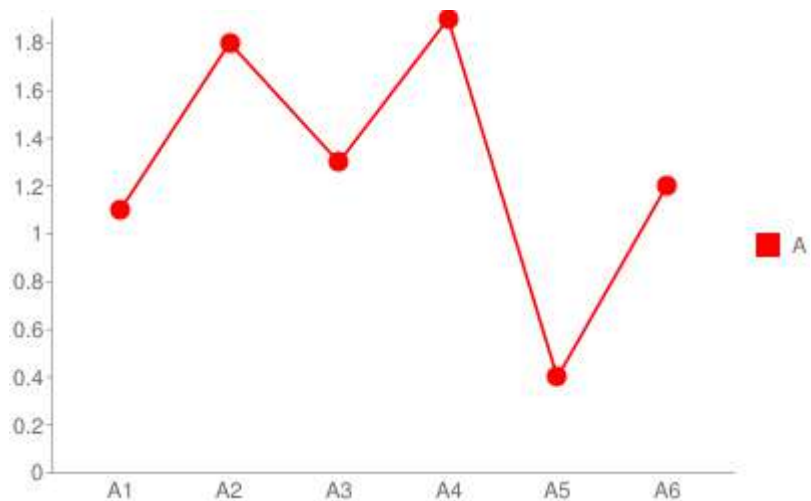


図 5-2 EEM 未導入都道府県内の大項目の分散分析結果グラフ

$F=13.12$ **であったため、有意水準 1%で有意差ありという結果であった。

EEMを導入している都道府県は、特に「②ごみ」「④省エネルギー・省資源」の取り組みがなされていることがわかる。また、「⑤環境啓発」の取り組みはあまりなされていないこともわかる。

「⑤環境啓発」について、平均点が 0.4308 点であるのに対し、標準偏差が 0.5405 である。つまり、EEMを導入している都道府県にとって、⑤の項目は総じて特に取り組みにくい項目であることが分かる。「⑤環境啓発」について、平均点が 0.4308 点であるのに対し、標準偏差が 0.5405 である。つまり、EEMを導入している都道府県にとって、⑤の項目は全般的に取り組みにくい項目であることが分かる。

5-6 大項目の分散分析

5-6-1 目的

環境配慮項目リストの大項目に相関関係はあるのか把握すること。

5-6-2 方法

- 方法 1 アンケート結果から、「できた：4 点，まあまあできた：3 点，あまりできなかった：2 点，できなかった：1 点，評価不可：0 点」とし、イベント 59 件の大項目ごとの点数を出し、平均点を出す
- 方法 2 環境配慮項目指数を基に、js-STAR-KISNET を利用して分散分析を行う

5-6-3 結果

5-6-3-1 「①自然環境」の分散分析結果

分散分析結果を以下に示す（表 5-19，図 5-3）。

表 5-19 「①自然環境」の分散分析結果

[As-Type Design]

== Mean & S.D. (SD=sqrt(Vtotal/N)) ==

A= A

①自然環境	データ数	平均値	標準偏差
EEM導入	33	7.4242	4.2713
EEM未導入	26	9.1154	4.742

== Analysis of Variance ==

S.V	SS	df	MS	F
A	41.5906	1	41.5906	1.00 ns
subj	1186.7145	57	20.8196	
Total	1228.3051	58		+p<.10 *p<.05 **p<.01



図 5-3 「①自然環境」の分散分析結果グラフ

$F=1.00ns$ であったため有意性は確認できなかった。

有意差はないものの、EEM を導入していない都道府県が開催するイベントの方が数値が高くなっていることが分かる。

5-6-3-2 「②ごみ」の分散分析結果

分散分析結果を以下に示す（表 5-20，図 5-4）。

表 5-20 「②ごみ」の分散分析結果

[As-Type Design]

== Mean & S.D. (SD=sqrt(Vtotal/N)) ==

A= A

②ごみ	データ数	平均値	標準偏差
EEM導入	33	19.4848	7.4716
EEM未導入	26	19.3846	7.7513

== Analysis of Variance ==

S.V	SS	df	MS	F
A	0.1461	1	0.1461	0.00 ns
subj	3404.3963	57	59.7263	
Total	3404.5424	58	+p<.10 *p<.05 **p<.01	



図 5-4 「②ごみ」の分散分析結果グラフ

$F=0.00ns$ であったため有意性は確認できなかった。

EEM の導入未導入に関わらず、数値は一定であった。

5-6-3-3 「③交通」の分散分析結果

分散分析結果を以下に示す（表 5-21，図 5-5）。

表 5-21 「③交通」の分散分析結果

[As-Type Design]

== Mean & S.D. (SD=sqrt(Vtotal/N)) ==

A= A

③交通	データ数	平均値	標準偏差
EEM導入	33	12.6364	8.2419
EEM未導入	26	13.6923	7.5231

== Analysis of Variance ==

S.V	SS	df	MS	F
A	16.2150	1	16.2150	0.25 ns
subj	3713.1748	57	65.1434	
Total	3729.3898	58		+p<.10 *p<.05 **p<.01

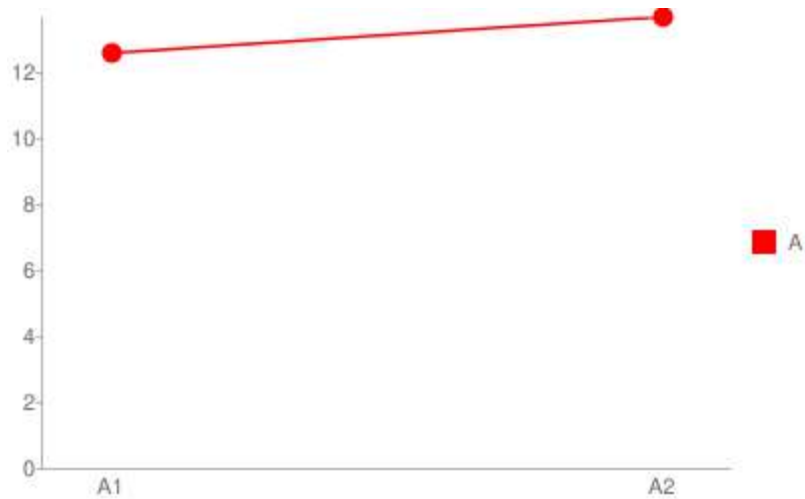


図 5-5 「③交通」の分散分析結果グラフ

$F=0.25ns$ であったため有意性は確認できなかった。

有意差はないものの、EEM を導入していない都道府県が開催するイベントの方が数値が高くなっていることが分かる。

5-6-3-4 「④省エネルギー・省資源」の分散分析結果

分散分析結果を以下に示す（表 5-22，図 5-6）。

表 5-22 「④省エネルギー・省資源」の分散分析結果

[As-Type Design]

== Mean & S.D. (SD=sqrt(Vtotal/N)) ==

A= A

④省エネルギー・省資源	データ数	平均値	標準偏差
EEM導入	33	28.1818	12.462
EEM未導入	26	29.5769	12.4874

== Analysis of Variance ==

S.V	SS	df	MS	F
A	28.3041	1	28.3041	0.18 ns
subj	9179.2552	57	161.0396	
Total	9207.5593	58		+p<.10 *p<.05 **p<.01

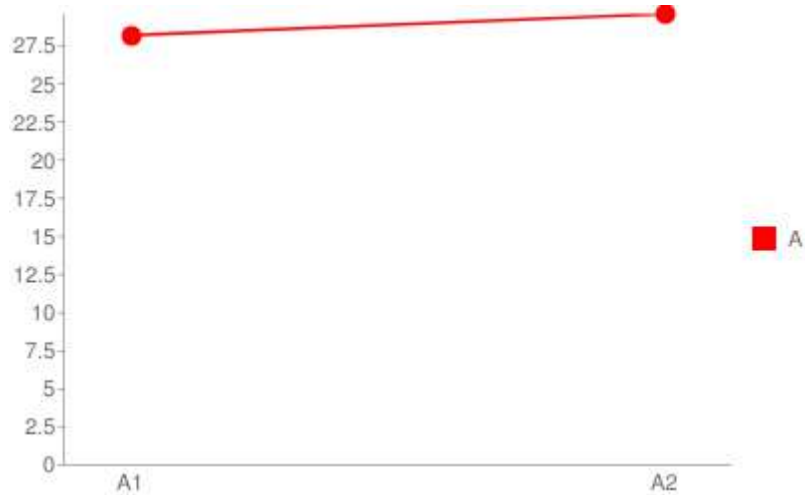


図 5-6 「④省エネルギー・省資源」の分散分析結果グラフ

$F=0.18ns$ であったため有意性は確認できなかった。

有意差はないものの、EEM を導入していない都道府県が開催するイベントの方が数値が若干高くなっていることが分かる。

5-6-3-5 「⑤環境啓発」の分散分析結果

分散分析結果を以下に示す（表 5-23，図 5-7）.

表 5-23 「⑤環境啓発」の分散分析結果

[As-Type Design]

== Mean & S.D. (SD=sqrt(Vtotal/N)) ==

A= A

⑤環境啓発	データ数	平均値	標準偏差
EEM導入	33	4.1515	4.2506
EEM未導入	26	2.5769	3.2483

== Analysis of Variance ==

S.V	SS	df	MS	F
A	36.0555	1	36.0555	2.36 ns
subj	870.5886	57	15.2735	
Total	906.6441	58		+p<.10 *p<.05 **p<.01



図 5-7 「⑤環境啓発」の分散分析結果グラフ

$F=2.36ns$ であったため有意性は確認できなかった。

有意差はないものの，EEM を導入している都道府県が開催するイベントの方が数値が高くなっていることが分かる。他の大項目と比べて唯一 EEM を導入した方が数値が高くなっている項目である。

5-6-3-6 「⑥運営体制」の分散分析結果

分散分析結果を以下に示す（表 5-24，図 5-8）。

表 5-24 「⑥運営体制」の分散分析結果

[As-Type Design]

== Mean & S.D. (SD=sqrt(Vtotal/N)) ==

A= A

⑥運営体制	データ数	平均値	標準偏差
EEM導入	33	12.2727	8.1213
EEM未導入	26	11.0385	8.0788

== Analysis of Variance ==

S.V	SS	df	MS	F
A	22.1540	1	22.1540	0.33 ns
subj	3873.5070	57	67.9563	

Total 3895.6610 58 +p<.10 *p<.05 **p<.01

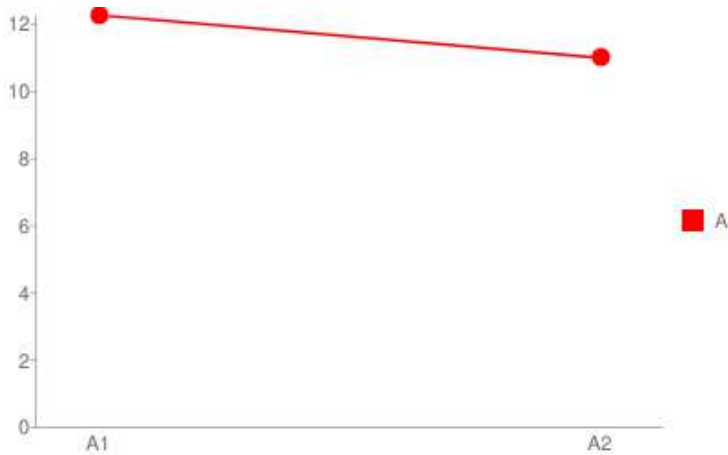


図 5-8 「⑥運営体制」の分散分析結果グラフ

$F=0.33ns$ であったため有意性は確認できなかった。

有意差はないものの，EEM を導入している都道府県が開催するイベントの方が数値が若干高くなっていることが分かる。

5-7 まとめ

分析結果から、内容別にみると、EEMを導入しているようが、導入していませんが、「②ごみ」「④省エネルギー・省資源」の取り組みはおおむねなされている。また、「⑤環境啓発」「⑥運営体制」の取り組みはあまりなされていないことが分かった。大項目別にみると、EEMを導入しているようが、導入していませんが、「②ごみ」「④省エネルギー・省資源」の取り組みはおおむねなされている。また、「⑤環境啓発」「⑥運営体制」の取り組みはあまりなされていない。

EEMの導入未導入に関わらず、EEMを利用している都道府県と、EEMを利用していない都道府県の間で、イベントの環境配慮行動に有意差は見られないことが分かった。

しかし、EEMを導入している都道府県都道府県としていない都道府県では、取り組み易い大項目に有意差があることが分かった。特に、「⑤環境啓発」への取り組み易さに違いが出ていることが分かった。EEM導入都道府県における⑤への取り組みの平均点は0.6735点、標準偏差は0.711であるのに対し、EEM未導入都道府県における⑤への取り組みの平均点は0.4308点、標準偏差は0.5405であった。これは、EEMを導入していない都道府県の方が環境啓発の意識が希薄であると平均点から言えると同時に、環境啓発の項目は全般的に取り組みされていないことが標準偏差から言える。つまり、EEMを導入して都道府県の方が、導入していない都道府県と比べてイベント開催時の環境啓発活動の意識が少し高いことが分かる。

第六章 結論

6-1 本研究の結論

6-1-1 「目的1：EEMの実施実態を調査する」の結論

EEM をインターネット上で公開している都道府県は、47 都道府県中 15 府県であり、おおよそ3分の1の都道府県が公開している。EEM を導入している都道府県は、47 都道府県中 22 道府県であり、おおよそ半数の都道府県で導入されている一般的なマニュアルということができる。

EEM 自体は、ごく一部の都道府県で作られているマイナーなマニュアルということではなく、ある程度日本に流通しているマニュアルであることが分かった。しかし、EEM を導入していない都道府県にEEMの存在を知っているか確認する旨のヒアリングをしたところ、存在を知らない都道府県が多く、まだ、流通しきってはいないことが分かった。EEM を導入していない都道府県の方が、環境配慮指数が高いと分析結果では出たが、エコイベントマニュアルを導入していない都道府県都道府県のなかでも、「①EEMの存在を知っているが、環境意識が高いのであえてEEMを作る必要がない都道府県」と「②EEMの存在を知らない、環境意識の低い都道府県」の2パターンに分けることが出来るといえる。①の存在が、EEM を導入していない都道府県の環境配慮行動の高さを牽引しているといえる。

6-1-2 「目的2：都道府県が実施するイベントにおける環境に配慮した運営の現状を把握する」の結論

47 都道府県の報道発表を閲覧後、抽出したイベントの総件数は361件であった。都道府県が主催・共催するイベントに関して、情報の提供・告知・発表を広く一般に知らせる目的で、報道機関に向けて報道発表されているため本調査を行った。都道府県が実施するイベントを把握するという目的2の前段に対して、47 都道府県から等しくイベントを抽出してくる作業が困難を極めた。これは、報道機関を通じて広く一般に情報の提供・告知・発表を行いたいと考える記事（イベントの記事を含む）は異なっており、都道府県によってはあまりイベントを広報したいと考えていないことがいえる。逆に、イベントの広報が活発な都道府県においては、イベントの抽出数が多くなった。

また、目的2の後段としては、環境配慮項目指数が高い項目や、できたの回答が多かった項目として、「④省エネルギー・省資源」が挙げられた。なかでも、広報物の省資源化を目的とした項目が該当していることから、広報物の省資源化は力を入れて取り組まれていることが伺える。「②ごみ」や「④省エネルギー・省資源」の項目は、都道府県がイベントを開催するときに取り組みやすい項目が比較的が多いという結果であった。

環境配慮項目指数が低い項目や、できなかった・評価不可の回答が多かった項目として、「①自然との共生」「⑤環境啓発」「⑥運営体制」が挙げられる。「①自然との共生」の内容が多くなったのは、植樹や魚の放流をおこなった「場合」、開発を伴う「場合」、手を加えた「ところ(=場合)」など、ある条件下でないと内容の達成が難しいものであったため、「①自然との共生」の項目が多くなったといえる。「⑤環境啓発」の内容が他の項目より多く該当するのは、環境配慮を目的として開催されたイベントではないものが多く、環境啓発活動にまで力を入れて活動できていないと推察できる。つまり、比較的「⑤環境啓発」の内容は、都道府県がイベントを開催するときに取り組みにくい項目であるといえる。「⑥運営体制」に関しては、環境配慮に関して、市民や市民団体と連携していたかどうかを問う内容に関して、できなかったの回答が多いという結果になった。環境配慮を目的としたイベントではないため、市民や市民団体と普通のイベントを環境に配慮した形で開催するといった趣向の話し合いや協力体制を取る事は現状ではなかなか難しいといえる。

こうして、EEMの環境配慮項目のなかでも、取り組みやすい項目(②, ④)と取り組みにくい項目(①, ⑤, ⑥)とで分類することができた。

6-1-3 「目的3：EEMの効果を分析する」の結論

EEMを導入している都道府県とEEMを導入していない都道府県を比較分析した際、EEMを導入していない都道府県の方が、環境配慮項目指数の平均点が高いことが分かった。このことから、環境意識が低い都道府県ほど、EEMを導入しており、既に環境意識が高い都道府県はEEMが不要であるためEEMを作成していないという仮説を立てることが出来るのではないだろうか。

EEM導入都道府県の場合、EEMを利用してイベントを開催したほうが若干環境配慮項目指数が高いことが分かったが、EEM未導入都道府県の場合は、EEMを利用せずにイベントを開催したほうが若干環境配慮項目指数が高いという結果であった。しかし、若干差であるため、EEMを利用していようが、利用してまいが、イベントの環境配慮行動に有意差は見られないという事ができる。また、EEMを導入していようが、導入してまいが、イベント時の環境配慮行動に有意差は見られないことが分かった。つまり、分散分析の結果としては、EEMが都道府県のイベント開催における環境配慮行動のためのマニュアルとして機能していないことがいえる。

しかし、「⑤環境啓発」の項目についてのみ、EEM導入の効果が以下の論点から見られる。EEM導入都道府県における⑤への取り組みの平均点は0.6735点、標準偏差は0.711であるのに対し、EEM未導入都道府県における⑤への取り組みの平均点は0.4308点、標準偏差は0.5405であった。これは、平均点から、EEMを導入していない都道府県の方が環境啓発の

意識が希薄であると言えると同時に、標準偏差から、環境啓発の項目は全般的に取り組みられていないことが言える。つまり、EEMを導入している都道府県の方が、導入していない都道府県と比べてイベント開催時の環境啓発活動の意識が少し高いことが分かる。

6-1-4 本研究全体の考察

分散分析結果の結論として、EEMを利用していても、利用していても、イベントの環境配慮行動に有意差は見られない。また、EEMを導入していても、導入していても、イベント時の環境配慮行動に有意差は見られないことが明らかになった。つまり、結果として、EEMが都道府県のイベント開催における環境配慮行動のためのマニュアルとしてほとんど機能していないという結論に至った。

しかし、「⑤環境啓発」「⑥運営体制」の項目については、EEM導入の効果が一定程度見られるという結論に至った。EEMが47都道府県中22道府県とおおよそ半分の都道府県で導入されているのに有効に活用されていないのには3つの要因があると考えられる。

要因1 環境配慮が既に内部目的化している

要因2 EEMは都道府県の環境配慮行動を対外的に見える化するための免罪符

要因3 EEMを利用するインセンティブに欠けている

以上3点がEEMが導入されているだけで有効に活用されていない要因であると考えられる。

要因の一つ目について、EEMを導入しているが、あえて参考にしなくても現行のEEMを利用するのと同じくらい環境配慮への意識があることが、EEMが有効に活用されていない要因なのかもしれない。

そのほかに、EEMを導入しているので、都道府県では環境に配慮したイベント企画がなされているというための免罪符的な利用がなされていると考える。免罪符的な利用がされている典型的な例として、ある都道府県の方へのアンケートの回答が挙げられる。「マニュアルを導入したからといってすぐに効果が見られることは期待できない。」という意見であった。まさに、マニュアルの導入自体に直接的な効果はなく、環境に配慮したイベント企画を行っているという対外的なアピールのために利用されている側面も伺える。

EEMを利用するインセンティブに欠けているという要因であるが、EEMを利用してイベントを企画することに対して、費用対効果が見込めていない現状があるため、利用が促されていないと考えられる。EEMが実際に有効に活用されていき、導入をしていない都道府県もEEMの導入を検討し、日本全体として、EEMを通じて環境に配慮したイベント企画

がなされるためには、何かしらのインセンティブを付与する必要であろう。一般的にインセンティブの種類として以下のものが挙げられる。

- ① 経済的インセンティブ…お金の収入と支出 など
- ② 社会的インセンティブ…社会的地位や名声，評判 など
- ③ 道徳的インセンティブ…ある行動を取ることによる正義感 など

②，③のインセンティブに関しては，導入するだけである程度得られることができ，実際にEEMが免罪符的な利用がなされていることもこのインセンティブに起因すると考える。そのため，今後の研究で必要なのは経済的インセンティブをどのように付与するかということではないだろうか。

6-2 今後の課題

EEMの効果の分析と，EEMが導入されているだけで有効に活用されていない要因を考察した。環境配慮が内部目的化された良い傾向ともいえるが，今後はマニュアルのより良い効果的な使い方を検討していくことが重要となってくる。活用を促すためのインセンティブについての検討も合わせて必要であろう。どのようなインセンティブを付与することでEEMが有効に活用されるのかについては，把握できていない。今後は，EEM導入，利用の際のインセンティブ付与について調査を行うことも必要であると考え。

また，対象の幅を広げることも課題として考えられる。本研究の対象は47都道府県のみであった。しかし，市町村単位でもEEMを独自に導入しているため，対象範囲を広げて分析を重ねることも必要であろう。

<参考文献>

1)経済学はみんなの味方!：経済学の基礎<<https://ss-wd.com/articles/basic/incentive/411/>>，2017-01-05

謝辞

この研究を卒業論文として形にすることが出来たのは、ご多忙の中貴重なお時間を割いてアンケート調査に協力していただいた自治体の方のおかげです。アンケートの回答の仕方が非常に分かりにくかったり、大変ご迷惑をおかけすることもあったと思いますが、そのような状況の中アンケートにお答えいただきました自治体の方に感謝の意を表します。

本研究を進めるにあたり、約1年半の間指導教員の金谷健教授に丁寧かつ熱心なご指導を賜りました。卒業論文の進捗のことで先生には、大変不安を煽ってしまったことだと思います。しかし、どれだけ進捗が悪くても変わらず丁寧かつ熱心なご指導を賜りました。ここに感謝の意を表します。

助言教員としてご指導を頂いた瀧健太郎准教授に感謝致します。研究に行き詰まった時、県庁出身という経歴をお持ちの瀧先生には多くの知見も以って、研究が良い方向へと向かうように指導していただきました。先生のアドバイスがなければ、途中で行き詰まっていたかもしれません。ここに感謝の意を表します。

学科内の他の先生方につきましても、研究の中間報告会の度に、厳しくも優しい指導やご意見を賜りました。ここに感謝の意を表します。

研究を通じて活発な議論にお付き合い頂いた金谷研究室の同期の堀君、篠田君、井手上君、楠さん、寺崎君、また同ゼミ内の院の先輩である北川さんに感謝します。一緒にここまでやってこれたことを嬉しく思います。みなさんがゼミ室に来て卒業論文を進めている姿を見て、自分も頑張らないといけないなど鼓舞することができました。

ここまで育ててくれた、大学に通わせてくれた両親にも感謝しています。ありがとう。これからもお世話になります。

ご協力していただいた皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。

2018年2月19日

盛下 勇磨